

都賀地域会議だより

第4号

平成28年3月

まちづくり実働組織の 設立に向けて

まちづくり実働組織は、住民が発的に設置する任意組織で、地域内の多くの団体や住民などが構成員となり、地域会議と協力連携しながら地域の課題解決や地域活性化のための実践活動に取り組みます。

新たな自治制度の重要な柱の一つである、まちづくり実働組織の設立に向けて、地域会議でも検討を重ねてきました。その中で、各種団体が参加しやすいよう都賀地域で1つの組織を設立することが望ましいというところ、地域で活動する団体や住民を対象に説明会を開催して、準備会を立ち上げていくということを確認しました。

これを受けて、地域まちづくりセンターでは、都賀公民館研修室において3月15日にまちづくり実働組織説明会を開催しました。都賀地域で活動する各種団体や地域のまちづくりに興味のある方など、高校生からシニア世代まで、48名が参加しました。



意見交換の中では、「活動するための資金はどのように集めればよいのか」「事務所や事務局はどうするか」といった質問が出されました。

実働組織の設立に期限はありません。行政からの押しつけではなく、地域住民自らの「地域のためにやってみよう」という機運の高まりが重要です。行政主導ではなく、自主自立の組織運営のために、皆さんで考えていただきながら設立されることが非常に大切です。

「説明会には参加できなかったけれど、まちづくりに興味がある」という方は、都賀地域まちづくりセンターにお問い合わせください。

地域予算について

都賀地域会議には、つがの里利活用部会、子育て支援・福祉部会、地域・文化振興部会の3つの部会があります。現在、各部会において、28年度に提案する地域予算(平成29年度実施分)について、検討しています。

各部会で案を絞った後、地域会議で話し合い、9月末までに市長に提出します。

また、27年度に提案した事業が、28年度に実施されます。これらの事業についても、地域会議としてどのように関わっていくのか検討し、協力・連携していく予定です。

平成28年4月から課名が「都賀地域づくり推進課」に変わります!! 連絡先の変更はありません。

都賀地域会議だより 第4号

平成28年3月31日発行

発行：都賀地域まちづくりセンター

〒328-0192

栃木市都賀町家中5982-1

都賀総合支所 地域まちづくり課

(電話) 0282-29-1100

(FAX) 0282-28-0169

(E-mail) t-chiiki@city.tochigi.lg.jp



防災教室を初開催!!

都賀地域自治会連合会

2月21日、都賀公民館を会場に、都賀地域自治会連合会主催の防災教室が開かれ、都賀地域の自治会から約60名が参加しました。



この教室は、昨年9月の関東・東北豪雨の被害を受け、自治会の防災意識の強化と、地域の人々が自発的に防災活動を行う自主防災組織設立の促進を目的に、都賀地域で初めて開催されました。

参加者は、初めに非常食体験として、ハイゼックスによる災害時の炊飯方法を体験しました。ハイゼックス

いう特殊な袋に米と水を入れ、空気が入らないように輪ゴムで縛ったものを鍋で煮ることでご飯を炊くことができます。災害時には食器や箸が不要で、一度に大量に炊くことができるという利点があります。



次に、栃木市役所危機管理課と自主防災組織の活動が盛んな埼玉県坂戸市の鶴舞自主防災委員長の講演会が行われました。危機管理課からは、昨年9月の関東・東北豪雨災害の被害状況の報告と自主防災



組織の概要や設立方法の説明がありました。被害の大きさを実感すると共に、地域における防災活動の必要性を再認識しました。

鶴舞自主防災委員長の三島康弘氏には、自身の自治会で行っている自主防災活動の内容や活動のきっかけ、苦労したことなどを、自治会長を経験したことも踏まえながらお話いただきました。自主防災組織の活動を知り、実際にどのような活動を行っていくかイメージすることができました。

体験学習の時間には、栃木市消防署都賀分署、栃木市消防団都賀方面隊の協力のもと、起震車による震度5以上の地震、煙テントによる火災現場の再現や水消火器による初



期消火といった各種体験を行いました。起震車を体験した参加者は、「地震が来ると分かっていても、火元の確認や身を守るなどの対応が難しかった。」と話していました。災害はいつ起きるか分かりませんが、これらの疑似体験は、非常時に落ち着いて行動するために有益な経験となりました。

昼食は、ハイゼックスによる炊飯で作ったカレーライスと、栃木市女性農業委員の方々が作った豚汁を受取り、災害時の炊き出しを体験しました。



参加者は、昨年9月の豪雨災害を経験したことで、住民一人ひとりが防災意識を高め、自治会など地域の住民による防災活動の必要性を改めて感じながら、真剣に取り組んでいました。

